

# ATEM Newsletter



発行 映画英語教育学会  
住所 〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
4-3-12アルク高田馬場4F  
TEL 03-3365-0182  
FAX 03-3360-6364  
E-mail office@atem.org  
郵便振替 00820-3-1477

全国大会特集号

January, 2018

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## ■会長挨拶

ATEM now stands for  
The Association for Teaching English  
through Multimedia

ATEM President **Makoto KURATA**  
(Kyoto University of Foreign Studies)

映画英語教育学会 会長 倉田 誠 (京都外国語大学)

Ladies and Gentlemen,

It is with great excitement that I inform you that ATEM, our long-held acronym and the new name of our association it will stand for, was unanimously approved as our official organizational name at the general assembly of our 23rd National Convention held at Otaru University of Commerce on November 11th, 2017. As already declared above in the headline, the acronym now stands for the Association for Teaching English through Multimedia. By slightly changing our official name and its representation, we have significantly expanded our academic caliber and parameters. We can now make use of not simply movies and dramas, but also other forms of audio-visual media such as TV commercials, newsreels, public speeches, pop music, Youtube clips, online advertisements, and even various aspects of technological gadgets. Kindly note that our official name and new logotype will come into effect on April 1st, 2018 (See page 8). Please do talk to your colleagues and friends about what the new ATEM is up to and welcome many interested outsiders to our academic arena.



Apart from my introduction of our new official name, please allow me to describe what else happened at the beautiful venue of our 23rd National Convention. As you know very well, our 2017 conference was organized under the theme of "Understanding Society and Language through Visual Media." My humble opening speech was

immediately followed by the wonderful words of congratulations and camaraderie from President Pyun, Mootae (Yongin Songdam College). Just for your reference, Dr. Pyun has recently been elected President of the Society for Teaching English through Media (STEM) and has been going all out to develop even a better rapport with us. Speaking of STEM, this year's special speaker representing our partner organization was Dr. Ryu, Do Hyung (Kookmin University), whose presentation title was "Uniting Film-Based English Education to Block Coding Through Implicit Learning." I would like to thank Dr. Ryu very much for such an interesting speech she painstakingly developed for us (See page 2). My gratitude also goes to Mr. Yusuke Nagashima, (The Institute for International Business Communication), Professor Hiromi Hagi (Kyoto Sangyo University), and Professor Minako Fukui (Kyoto Sangyo University), all of whom coped convincingly with TOEIC on the basis of their statistical data as well as their educational expertise, and cut across the interests of many people in the audience (See page 3). We also enjoyed a thought-provoking array of speeches, symposia, poster sessions, and publishers' exhibitions, all of which worked up to climax in the special lecture delivered by Dr. Eijyun Senaha. Professor Senaha dealt dexterously with the theme of "Cinematic Presentation of Alternative Facts: Teaching Gender and Sexuality in Classroom." Everybody in the audience was so overwhelmed and silenced by Dr. Senaha's insightful thoughts and remarks that you could have heard a pin drop in the lecture hall (See page 2). In a nutshell, I would say the 2017 convention came off really well, and I feel indebted to all the members of Hokkaido Chapter who broke their backs trying to develop such a memorable meeting of the minds.

Last if not the least, I am pleased to announce that our 24th National Convention will take place at Kyoto University of Foreign Studies (KUFS) on Saturday, October 27th, 2018. KUFS has recently completed constructing a new eye-pleasing and innovative building, and we are thinking of using a part of it for the next year's attention-getting multimedia conference. Please do consider making a pedagogical pilgrimage to the educational establishment located in the center of Kyoto on 10/27 and taking in some of the picturesque sights in the autumnal ancient capital the following day. Thank you for your kind attention.

## ===== 全国大会報告 =====

## 映画英語教育学会(ATEM)第23回全国大会

## The 23rd ATEM National Convention

映画で学ぶ社会と言語

Understanding Society and Language through Visual Media

2017年11月11日(土) 於:小樽商科大学

## ■特別講演

## Cinematic Presentation of Alternative Facts:

## Teaching Gender and Sexuality in Classroom

(映画が創出する事実:教室で教えるジェンダーとセクシュアリティ)

瀬名波栄潤(北海道大学大学院文学研究科)

講師の瀬名波栄潤教授は、長年ジェンダーやセクシュアリティの視点から、英文学作品や映画作品を研究し、教育を実践してきた研究者である。ジェンダーとセクシュアリティの問題は、近年脚光を浴びて来ている分野であり、日本の教育の現場でも議論が高まってきている。講演では、『フォレスト・ガンプ』(94)、『クレイマー、クレイマー』(79)、『テルマ&ルイズ』(91)など、ジェンダーとセクシュアリティを扱う映画作品の具体的なシーンと台詞の実例を豊富に使い、詳細な解説が行われた。瀬名波先生は映画のメッセージ性に着目し、制作する側の芸術感覚・文化価値・経済状況によって、



変形・誇張・隠蔽されることで、観客が新たな刷り込みや錯覚を起こすとし、映画を本当の話であると勘違いする学生が一定数いることを指摘した。この今大会のメインの講演には、ATEM 会員だ

けでなく、STEM 会員や市民の方々など大勢が会場に詰めかけ、熱心に耳を傾けていた。時間の関係で質疑応答の時間が取れなかったが、講演終了時には、直接質問している方の姿も見られた。

(小林 敏彦)

## ■STEM 特別発表

## Uniting Film-Based English Education to Block Coding Through Implicit Learning

By RYU Do Hyung (Kookmin University)

将来多くの仕事が人工知能によって取って代わられることが予想される中で、言葉を専門にする通訳や外国語教



員の仕事も大きな影響を受ける可能性がある。本発表は、英語教員がこの来るべき危機にどう備えるべきかという問いに対して、ひとつの方向性を提示するものであった。それは情報社会を動かしているコンピュータのプログラミング (computer coding) を英語教育の中に取り込むという考え方である。プログラミングもまた言語であり、今後の情報社会を生き抜いていくために必要なリテラシーとなりつつある。そこには語彙と文法があり、その学習には明示的 (explicit) な方法と、非明示的 (implicit) な方法が考えられる。本研究では、後者の非明示的な教授法として映像メディアやオンラインゲームなどを活用し、アクティブ・ラーニングを行う試みが紹介された。情報メディアの活用は、英語教員の生き残りの術であると同時に、英語教育の新たな地平を開く鍵でもある。

(井村 誠)

-----  
**第24回 ATEM 全国大会**  
**2018年10月27日(土)**  
**於: 京都外国語大学**  
 -----

## ■特別セミナー

### 「新」TOEICの社会的意義と攻略法

長嶋 裕介 (国際ビジネスコミュニケーション協会)  
 菰 寛美・福井 美奈子 (京都産業大学)

「新 TOEIC の社会的意義と攻略法」というテーマで特別



セミナーが開催された。前半を国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) の長嶋裕介氏に担当いただいた。長嶋氏には新形式の問題が加わった TOEIC L&R はどこがどのように変わったかという情報提供にとどまらず、企業でどれくらい活用されているかという興味深い事例も示していただいた。例えば、大学生の人気企業トップ 50 社のほとんどが活用しており、管理職にも一定の基準が求められるようになっている点を指摘しておられた。また新形式は難易度が上がったという声があるが、点数の調整がされているので、実際の点数には変わりがない点も強調されていた。後半は京都産業大学の実学英语講師である菰寛美先生と福井美奈子先生に TOEIC L&R の攻略法につい

てお話いただいた。独自の調査で判明した頻出語や表現の一例を提示し、聴衆の関心を引いていた。



てお話いただいた。独自の調査で判明した頻出語や表現の一例を提示し、聴衆の関心を引いていた。

(倉田 誠)

## ■表彰式・総会

本年、開会に先立ち行われた表彰式及び総会では、まず、第 6 回優秀論文賞を受賞された麗澤大学の北原賢一先生に対し賞状と賞金の授与が行われた。続いて新 ICT

専務理事の巳波義典先生 (京都外国語大学) の紹介があり、国立情報学研究所による論文電子化・公開サービス (NII-ELS) が終了し新しいプラットフォームに移行する作業を担当する旨が報告された。そして最後に、倉田会長より当会の名称変更についての経緯説明があり、新名称案「映像メディア英語教育学会」が承認された (詳細 P8 参照)。



巳波理事

(新田 晴彦)

## ●受賞のこぼ

### <優秀論文賞>

英語学と映画英語教育の接点 — *Full Metal Jacket* (1987) における“You talk the talk. Do you walk the walk?”の翻訳

北原 賢一 (麗澤大学)

このたびは第 6 回 ATEM 優秀論文賞という大変な栄誉を授かり、私の日頃の教育・研究活動を高く評価下さったことに深い感謝の念を持つと同時に、今後一層の努力を積み重ねていく決意を新たに致しました。この場を借りまして、匿名の二名の査読委員の先生方、そして審査に携わった全ての先生方に心より御礼を申し上げます。第 23 回全国大会では、会長の倉田誠先生から学会名の変更のご発表がありました。「映像メディア英語教育学会」という新たな学会名とともに、ATEM はこれからどんどん成長していくのだな、と子供のようにワクワクする気持ちと知的興奮を覚えました。映像メディアを利用した教育・研究を日常的に行っている研究者・教育者の数は、どんどん増えております。新しい学会名という旗印のもと、多くの優秀な研究者・教育者が加わり、毎年の学会やジャーナルがますますにぎやかになることを夢見ております。私もその一助となるべく、これからもがんばります!





## ■シンポジウムA

### 映像メディア媒体としてのTEDの英語教育への応用を考える



左から金田先生、横山先生、飯田先生

西日本支部では、「映像メディア媒体としてのTEDの英語教育への応用を考える」と題して、金田直子先生（京都外国語大学）、横山仁視先生（京都女子大学）、飯田泰弘先生（岐阜大学）の3人がそれぞれの視点からTEDの魅力およびその英語教育への応用の可能性を提言した。

金田先生は「英語の音象徴」の視点から英語のオノマトペが表す様々な表現を紹介した。日本語のオノマトペは、多言語では表現しにくい微妙なニュアンスでも描写することができる喚情的な言葉の一つであるが、これらのオノマトペが英語ではどのように表現されているのか具体例を挙げ提言した。

横山先生は「情報の流れ」の視点から、プレゼンターの意図が読み手・聴き手に効果的に伝達されるために、映像の持つ力（ノンバーバルの側面）とともに文体（焦点化など）にどのような工夫がされているかについて、具体例を示し提言した。

飯田先生は「事例・資料提示」の視点から、特に英語学（や英文法）に関する授業やプレゼンテーションでの理解しやすい例文や例え話を提示することの重要性について、Pinker [Filmed 7, 2005]を例に提言した。

（西日本支部企画）

## ■シンポジウムB

### 映画『ズートピア』を活用した異文化理解教育の実践

東日本支部では、吉牟田聡美先生（国際基督教大学）

と延原みか子先生（東京都立産業技術高等専門学校）が、映画『ズートピア』（16）を活用した授業実践について発表した。『ズートピア』は、異なる種族がいかに調和し共生すべきかという異文化理解の根底的な問題を描いている。“Zootopia”が、ZooとUtopiaをかけ合わせた造語であるように、異なる種族の理想的共同体を追求する努力の必要性が謳われている。同時に、本来不完全な社会は全員のニーズを満たすのは不可能であり、その前提でお互い理解し妥協点を見つけていこうという、現実受容的なメッセージも提示されている。

本発表では、このテーマに迫るべく Intercultural competence を高める授業プランの提案が、オーディエンス参加型のワークショップの形式で行われた。同じ登場人物が両極端な立場におかれる2つの場面を取り上げ、初対面の人に遭遇した場合無意識に行う客観的描写、主観的解釈、価値判断といった三段階の認知プロセスの分析方法と学生の反応が披露された。



左から吉牟田先生、延原先生

（東日本支部企画）

## ■シンポジウムC

### 映画とメディアを活用したビジネス英語の授業の取り組み

北海道支部では小林敏彦先生（小樽商科大学）、尾田智彦先生（札幌大学）、上坂拓司氏（商大グリーンツアリズム）が映画とメディアを活用したビジネス英語の授業の取り組みについて発表した。

まず、小林先生が小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院ビジネススクール）での、ここ数年間授業の一部に取り入れてきた洋画を活用したビジネス英語（初中級および中級レベル）の教授法を紹介した。ビジネス英語の定義から始まり、



発表中の小林先生

洋画作品のどのシーンを選び、どのようなタスクを行うのか、実際に授業で使用したハンドアウトを実例にその取り組みを報告した。次に、尾田先生が英字新聞やNHKのラジオ番組を活用した授業の取り組みを、同じく授業のハンドアウトの実例を提示して紹介した。特に学生の興味やレベルに合わせた教材作りのコツや苦労話も紹介された。最後に、小林先生のビジネス英語講義を数年間受講し続けている、MBAホルダーで企業家の上坂氏が、北海道の南空知へ外国人観光客を惹きつけるための事業内容についてのプレゼンテーションを英語で行った。会場に集まった人々は、たいへん興味深く耳を傾け、発表後は活発な質疑応答となった。

(北海道支部企画)

会場スナップ

小樽商科大学の学生バイトの面々

受付では支部会員が大奮闘



開会式にて  
挨拶するSTEM会長→



総会司会の新田理事



STEM発表司会の井村理事

会場スナップ

学会名称変更について説明する倉田会長



懇親会でスピーチ中の塚越副会長



次回大会担当の西日本支部長と握手を交わす北海道支部長↓



閉会挨拶をする藤枝理事



今大会の参加者には、現在映画を使った英会話学習アプリを開発中という大手映像配信会社社員の姿もあった



## ■研究発表一覧

第23回全国大会の研究発表は下記のとおりである。タイトルの表  
記言語は発表での使用言語を指す。発表者の敬称は略する。

////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////

### 【Session 1】

ポストコロナル視点で観る『レヴェナント 蘇えりし者』と『ト  
ゥルー・グリット』— 映画と文化データベース(MCDB)の展望

塚田 三千代 (映画アナリスト・翻訳家)

映画の視聴がリスニングとリーディングに及ぼす影響

森 久子 (日本赤十字豊田看護大学)

映画における発達障害表象

若木 愛弓 (苫小牧工業高等専門学校)

Code Switching in Rocky Series

YOSHIDA Masayuki (Waseda University)

Impact of a Mobile-Assisted Problem-Based Learning Program  
on College EFL Students' Receptive Skills

KWON Eun-Young (Dongguk University)

### 【Session 2】

スターの夢 — 『ノッティングヒルの恋人』 (1999) の対比的要  
素と Anna の成長

日影 尚之 (麗澤大学)

「Be 動詞」の語法文法を映画英語コーパスから分析考察する～小  
学校英語のための新しい教授法開発のために

大月 敦子 (専修大学)

Beau Brummell: This Charming Men (2006) にみる「ダンディ  
ズム」の階級コード転換

河野 弘美 (京都外国語短期大学)

How can TED speeches be effectively used as teaching:  
learning material for project-based English learning in high  
school English classrooms

YAMAZAKI Hideki (Hokkaido Chitose Senior High School)

Short animations as a tool for teaching phrasal verbs of motion  
and change from a cognitive linguistic perspective

SPRING Ryan (Tohoku University)

The Office Goes to School: Developing Intercultural Awareness  
in Business Communication Course Using TV Series The Office

CHUNG Yunjeong (Busan National University of Education)

### 【Session 3】

映画から社会的なトピックを引き出す — Whiplash (2014) を  
介したエッセイライティング教育

小泉 勇人 (東京工業大学)

英語の“謝罪”のストラテジーを学ぶ — 映像英語を通じた語用論  
見地からの考察

鈴木 光代 (東京女子大学)

越智 希美子 (松山大学)

日英語の表現形式の違いを意識した英語学習の提案 — glee を用  
いて

山添 直樹 (名城大学)

A CLIL approach to keyword summarization through TED  
Talks

IWASAKI Hirosada (Tsukuba University)

Using Authentic Materials as a Means of L2 WTC and  
International Posture: Qualitative and Quantitative  
Research on University Students Foreign Language Learning

KITAOKA Kazuhiro (Osaka City University)

Smooth, Automatic and Fast – Focus on Fluency with Modern  
Family and The Walking Dead

WERE Kevin (Kookmin University)

### 【Session 4】

『シェヘラザード』のシネマデータベース—構築の留意点と今後  
の課題

清水 純子 (慶應義塾大学)

ドラマ『glee/グリー』を活用したコミュニケーション教材の開発  
—映画教材と比較した利点と欠点

角山 照彦 (広島国際大学)

授業開始前 10 分の DVD 視聴がもたらす効果について

岡崎 ラフ和子 (大阪工業大学)

映画を通じて学ぶホスピタリティ英語

藤倉 なおこ (京都外国語大学)

Using Movies as Writing Prompts

SANO Aiko (Hokkaido Bunkyo University)

Content-Driven or Language-Driven Approach?

SEO Ji-Young (Kookmin University)

### 【Session 5】

「イギリス英語」と「アメリカ英語」の違いを知るための映画利  
用法 — 『ハリーポッターと賢者の石』を使って

河上 昌志 (札幌市北都中学校)

Using Japanese Films in Classes with Students of Mixed  
English Ability

KLINGER Walter (The University of Shiga Prefecture)

Noticing Activities Using Movie Material: Using the Movie  
Serendipity

IM Mijin (Kookmin University)

### 【Session 6】

選択科目における映像活用法

小嶺 智枝 (明治大学)

Introduction to Critical Thinking in Classroom

KIYOSAWA Kaoru (International Christian University)

Flipping the TV Series for Enhancing Language

Communication Aptitude

LEE Jason Yun Joon (Daegu National University of

Education)

### 【Session 7】

The Cats of Mirikitani: Using a Documentary Movie about  
Homelessness in the EFL Classroom

BERGLUND Jeff (Kyoto University of Foreign Studies)

A Suggestion About Making an EFL Syllabus Using Movies:

On the Basis of Text-Based Instruction

LEE Jawon (Kookmin University)

### 【ポスターセッション】

オンラインによる英日同時学習の遠隔タンドムプログラムの開発

The challenges of developing an online tandem learning  
programme to foster target language use of EFL (English as a  
foreign language) and JFL (Japanese as a foreign language)  
learners

PATKO Agnes (Kyoto University of Foreign Studies)

医療系の学生を対象にしたマルチメディア教材の活用について

北間 砂織 (藤女子大学)



## ■支部だより

### [ 北海道支部 ]

◆6月開催の第3回ATEM北海道支部ワークショップ「洋画を活用した教材開発」では、出席者が同じ洋画シーンから制限時間以内にハンドアウト作成する試みを行いました。

◆9月には支部長の小林が韓国に出張し、STEM全国大会(MMSEE)にて研究発表を行いました。

◆本年度は前半からほぼ毎月、11月11日に小樽商科大学で開催された第23回全国大会の実行委員会を行いました。大会当日は寒い中、早朝から支部会員や学生が力を合わせて準備を進め、200名を超える参加者を得て大盛況のもと終了しました。(支部長：小林 敏彦)

### [ 東日本支部 ]

◆第8回支部大会を去る2017年12月17日(土)に麗澤大学東京研究センターで開催しました。特別講演には角山照彦先生(広島国際大学、ATEM前会長)をお迎えし『映画・ドラマを活用した英語テキスト開発—Learn English with “Titanic” 出版までとこれから』と題しお話いただきました。今回は小林敏彦先生(北海道支部長、小樽商科大学)、藤枝善之先生(本部大会実行委員長、京都外国語大学・短期大学)ほか、合計10件の研究発表をいただきました。(支部長：渡邊 信)

### [ 中部支部 ]

◆当支部ではこれまで長期にわたり映画英語フェスティバルを開催し、中部地方の学生の映画英語学習へ貢献してきました。3か月に一度の運営委員会では、そのノウハウも生かしながら、さらに学術的な発展と今後の努力についても話合われています。

◆今年度は2018年2月17日に中部支部大会を行い、支部総会では来年度からの新支部長や新体制が発表されます。(中部支部)

### [ 西日本支部 ]

◆第15回西日本支部大会(於 大阪工業大学梅田キャンパス)を下記の内容で2018年3月3日に開催します。

1: 支部間学術交流発表「映画の英語の AUTHENTICITY を検証する9つの視点—YouTube との比較—」(小林敏彦/小樽商科大学) 2: 企画ワークショップ「動画作成を取り入れた英語授業～実践報告と動画編集デモ～」(吉村征洋/摂南大学、仁科恭徳/神戸学院大学、桐村亮/立命館大学) 3: シンポジウム「合成音声(Text-to-Speech)・音声認識(Speech-to-Text)ソフトの英語教育への応用」(東淳一/神戸学院大学、中西のりこ/神戸学院大学) 4: 講演「TED Talks ができるまでのプロセスと英語教育への活用」(塩見佳代子/立命館大学)。他に研究発表が8件あります。詳細は支部HPでご確認ください。(支部長：横山 仁視)

### [ 九州支部 ]

◆本年度の支部大会を2017年8月26日(土)に、大分県立文化芸術短期大学に於いて開催しました。次年度の大会については、12月の運営委員会で審議します。

◆現支部長の任期が満了し、吉村圭先生へバトンタッチします。副支部長は大木正明先生と篠原一英先生が継続予定です。支部事務局長は藤山先生退任に伴い、鶴田知嘉香先生が担当しておりましたが、それも今年で任期満了になります。後任人事は12月の運営委員会で審議されます。(支部長：高瀬 文広)

## ■委員会だより

### [ ジャーナル編集 ]

◆第23号に論文をご投稿下さった皆様には、玉稿を有り難う御座いました。今回の投稿数は11本と、全国大会より前のメ切であったため、微減です。1月現在、投稿された論文は査読を経て、執筆者の皆様からの修正稿の入稿待ちという段階です。第20号以降のジャーナルへの掲載論文は、引用文献の個別検索が可能なJ-stageにアップロードされます。それに伴い、今後の紙媒体でのジャーナル発行についてどうするか、皆様と検討していく予定です。(委員長：塚越 博史)

### [ 国際交流 ]

◆姉妹学会であるSTEMの第21回大会は、KAMALL (Korea Association of Multimedia-Assisted Language Learning)、KASEE (Korean Association of Secondary English Education)との共催で、9月15日(金)～17日(日)、仁川市(インチョン)の京仁大学校(Gyeongin National University of Education)にて開催されました。ATEMからは全国各支部から総勢15名が参加し、7件の研究発表が行われました。

◆第23回全国大会には、姉妹学会であるSTEMからPyun Moo Tae 会長夫妻をはじめ総勢16名の先生方が参加され、RYU Do Hyung 先生の特別発表を含めて8件の発表がありました。(委員長：井村 誠)

### [ 大会運営 ]

◆小樽商科大学における本年度の全国大会は、約120名(学生を含むと約200名)の参加者を得て成功裏に終わりました。今回は、瀬名波栄潤教授(北海道大学大学院)による特別講演の他、長嶋裕介氏(IBC)などによるTOEIC特別セミナー、STEM会員による特別発表、各支部によるシンポジウム、会員による研究発表・ポスター発表がありました。2018度の大会は、10月27日(土)京都外国語大学にて開催されます。引き続き皆様のご協力をよろしくお願い致します。(委員長：藤枝 善之)

### [ 会員管理 ]

◆今回の大会では、事前申し込みをしているにもかかわらず受理されていないという現象が発生致しました。後日原因が判明し、来年度からの混乱を回避するため、申し込み状態を確認できる仕組みを追加する予定です。来年度からはご自分の参加状況をご確認ください。ご迷惑をおかけした会員の皆様にはこの場を借りてお詫び申し上げます。(委員長：新田 晴彦)

### [ ICT ]

◆このたびICT担当理事を仰せつかりました。ICT委員会では、ジャーナルの電子データをNII-ELSからJ-STAGEへ移管する作業を行いました。第19巻まではJ-STAGE上ですでに公開されており、以降の巻も順次登録していく予定です(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/atem/-char/ja>)。また、学会の新名称の採択に伴い、ウェブページの刷新も計画しております。(委員長：巳波 義典)

### [ 広報 ]

◆ATEM Newsletterは全国大会の開催日にあわせ発行日に変動するため、円滑な作成手順の工夫に努めております。(委員長：松田 愛子)

## ■決算報告

## 第23期 映画英語教育学会【決算報告書】

2016年4月1日～2017年3月31日

収入の部			支出の部			
前年度繰越		1,451,189	大会開催費	大会開催経費用	543,687	
会員年会費	2013年度分@5,000	1	5,000	紀要印刷費(抜刷り含む)	518,912	
	2014年度分@5,000	7	35,000	ニュースレター発行費	ニュースレター印刷費	84,240
	2015年度分@5,000	20	100,000	ホームページ維持費	サーバ・レンタル代	20,463
	2016年度分@5,000	206	1,030,000	研究活動費	支部活動助成	260,000
	2017年度分@5,000	11	55,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	17,526
賛助会費	2015年度分@10,000	1	10,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	120,266
	2016年度分@10,000	10	100,000	雑会費	言語系学会 年会費	10,000
大会参加費	会員@1,500(事前@500)	87	61,500	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	441,710
	非会員@2,000(事前@1,000)	21	32,000	消耗品費	会計ソフト等	25,306
大会懇親会費	@4,500	52	234,000	懇親会費	懇親会支出額	287,000
書籍売上	CINII・紀要・著作権ハンドブック		122,820	雑費	振込料他	7,996
受取利息		2		未払金支払	前期末払支払分	86,400
書籍送料			800			
小計			3,237,311	小計		2,423,506
未払金			75,600		みずほ銀行	817,129
					郵便振替口座	57,588
					小口現金	14,688
					翌年度繰越金	889,405
合計			3,312,911	合計		3,312,911

※個人会員 302名・賛助会員 14社

2017年5月吉日 上記の通り相違ありません

会計監査 秋月 剛



## ATEM Clapper Board

1) 第23回全国大会へご出展いただいた賛助会員は下記の皆様です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。(50音順)

記

IIBC 英宝社 桐原書店 金星堂 松柏社  
成美堂 センゲージラーニング チェル

2) 11月11日(土)の全国大会の総会で改名が承認され、2018年4月1日から適用されます。正式名称は"ATEM"で、英語の副名称は"The Association for Teaching English through Multimedia"、日本語の副名称は「映像メディア英語教育学会」です。ロゴは以下の通りです。



(事務局)

### <賛助会員一覧> 2017.12.1 現在

株式会社朝日出版社  
株式会社アルビス  
英宝堂  
株式会社金星堂  
桐原書店  
国際トラベル京都  
一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)  
シードラーニング株式会社  
松柏社  
株式会社成美堂  
センゲージラーニング株式会社  
チェル株式会社  
ピアソン・ジャパン株式会社  
広島工業大学学務部 MM 準備室

### ～編集後記～

◇お忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。  
◇本年も全国大会では会長挨拶を動画に収めましたので、後日、本部HPに掲載いたします。  
◇次号は2018年5月頃に発行予定です。

[広報委員会] \*松田愛子(北海道)、田口雅子(北海道)、杉浦綾子(東日本)、井土康仁(中部)、衛藤圭一(西日本)、鶴田知嘉香(九州) \*委員長

©ATEM All rights reserved.

